

県南広域振興局における伐木技術普及研修の実施について

1 はじめに

岩手県では、県内林業従事者の伐木技術の向上を図り、労働災害を未然に防止するため、標記研修を実施しています。

令和6年度は、広域振興局ごとに各1回実施することとしており、県南広域振興局においては、令和6年11月5日(火)に林業技術センターで実施しましたのでその内容を紹介します。

2 研修内容

講師は、県南広域振興局管内の岩手県伐木技術指導員の3名で、受講者は同管内の林業経営体の林業従事者7名でした。

(1) 午前の部 安全装備の点検等

服装と保護具等の装備を確認した後、チェーンソーの点検整備及び目立てについて指導を受けました。

受講者は、自身のチェーンソーの目立ての癖や整備不良(チェーンのゆるみ等)について気づくことができました。チェーンソーゲージを用いた目立て方法やチェーンソーを安全で長持ちさせるための毎日・週一のチェック項目を学びました。



午前の部 安全装備の点検等の様子

(2) 午後の部 簡易伐倒

午後は、丸太を使用した簡易伐倒によるチェーンソー操作技術の研修を行いました。簡易伐倒は、立木に見立てた直径約30cm、長さ約1mの丸太を用いて受け口と追い口を作成し、実際は丸太を切り倒さずに行います。作成した受け口、追い口から伐倒方向のズレや受け口の深さなどの項目を測定することで、受講者は、自身の伐倒技術の正確さを数値で確認することができ、数値を目標値に近づけるよう、何度かトライしていました。

また、簡易伐倒の際、危険行動の回数を講師が確認し指摘することで、受講者は無意識に行っている危険行動(前ハンドルを握る際に親指が出る、ロックせずに歩行するなど)に気づくことができました。無意識の行動を意識して変えることに取り組みました。



午後の部 簡易伐倒の様子

3 おわりに

研修後に受講者に対して行ったアンケートでは、概ね満足度が高いという結果になりましたが、実技時間が短いといった意見もみられました。いただいた意見等をふまえ、林業労働災害の撲滅に向け、今後も取組を進めていきます。